

# 田村市の文化財

## 『石造物』市指定有形文化財7基を中心に

関教育部生涯学習課 81-121-15

道路の傍らや神社寺院の境内などに見られる「石造物」。それらは私たちの先祖がさまざまな願い・祈りをこめて造立したものです。市内には中世から昭和時代にかけての石造物が約3,000基確認されていますが、今回は市指定有形文化財7基を中心に紹介します。



1

娘を亡くした親が造立したもので、1292(正応5)年の銘が刻まれています。門鹿地区にはほかに小砂田境内に1305(嘉元3)年銘の②「小砂田供養塔」があります。同町文殊寺南地内の萬福寺境内には、阿弥陀如来の種子「キリーク」がはつきりと読み取れる、1312(正和元)年銘の③「萬福寺供養塔」があります。

同町上移字竹ノ花地内の④「竹ノ花供養塔」は、南北朝期の南朝年号である1340(興国元)年銘が刻まれ、当時その辺りが南朝方に属していたことを物語ります。大越町下大越字壇野平地内の⑤「石造阿弥陀三尊来迎供養塔(壇野平)」と同町下大越字町地内の⑥「石造阿弥陀三尊来迎供養塔(町)」の2基は、ともに造立年代は不明ですが、平安時代中期以降に広まった浄土信仰の影響により造立されたものと推測さ

れ、来迎供養塔は市内にこの2基しか存在せず、大変貴重なものです。

常葉町久保字川久保地内を通る国道288号側の⑦「三界万霊等」は、1816(文化13)年に三春藩主・秋田孝季が、1783(天明3)年の大飢饉で亡くなった領内1,500余名の33年忌の追善供養として造立したものです。石材を常葉字松ノ作地内より割り出し、延べ1,600人の人夫が20日間



2

を要して現在地に運んだと伝わります。

市内約3,000基の石造物で最も多い種類は「馬頭観世音塔」で、全体の30%を占めます。田村地方が江戸時代から昭和初期にかけて馬産が盛んであったことから、馬の育成や供養のため、また街道の通行の安全などを願って造立されました。次に多い種類は「庚申塔」で全体の12%。江戸時代に流行した庚申信仰がこの地方にも深く浸透していたことが分かります。ほかに日待塔・月待塔、湯殿山碑などの山岳信仰に関する塔、山神塔などの自然に関する塔、地藏菩薩像塔などの種類がありますので、身近な文化財として、普段なにげなく見ている石造物に心寄せていただければと思います。

- 1 樋ノ口供養塔
- 2 三界万霊等

次回は「民俗芸能 -獅子舞-」を紹介する予定です。田村市の文化財一覧はこちら▶▶▶



### 私とサッカーをしまじょう



Sara Mould  
サラ・モルドさん  
(アメリカ合衆国  
オハイオ州出身)  
田村市に来て2年目

が来るのか分からないまま、たぶん子どもたちがサッカーをしようという思いで競技場に行ったことなどはとても良い思い出です。

サッカーは、私がずっと大好きなスポーツの一つです。私はサッカーと共に成長し、兄弟姉妹との試合もワールドカップの試合も区別なく、いつもサッカーの試合を楽しんで見えています。フィールドでボールを追いかけて、ゴールを目指してチーム一丸となっている姿に魅了されました。新たな可能性の扉を開ける一つ一つのパスの動きはまるで芸術を見ているかのようです。

これまでに生活した国で、サッカーは私と子どもたちをつなぐ架け橋になってくれました。西アフリカの道端で子どもたちと一緒にサッカーをしたことや、アルメニア共和国では誰

日本に来て、中学校でサッカー部の練習を見ることができ、私はとてもうれしかったです。コーチと部員たちはとても親切で温かく私を迎えてくれたので、自分がチームの一員になったように感じました。私は日本語を話せませんでした。見るだけで才能のある部員たちだと分かりました。また、チームの練習を何度か見ているうちに、戦略的にプレーする良いチームだとも思いました。

練習中に部員がけがをしたときや、サイドラインに立っているときに私が英語で話しかけていたので、部員たちにとってはとても良い英語の練習になったと思います。私の質問がすべて理解できたかは分かりませんが、英語の授業で学習した文法を使って会話することができました。

最近では、サッカー部の練習を見ることは少なくなりましたが、私自身がなにかスポーツをやりたいという思いが湧いてきました。サッカーなどのスポーツは、言葉の壁を乗り越え、まったく異なる文化的な背景をもつ人々をつなぐことができます。私も皆さんと一緒にスポーツができることを楽しみにしています。よろしくお願ひします。



広告欄 Advertisement

## 有料広告募集中

問い合わせ…総務部 総務課 (☎0247-81-2117) へ